

# 9

## 学校は自然との共生を 楽しむリサイクル空間

### …給食—校庭の森—体験田

#### ● 子どもたちが主役「大事に食べて大事にリサイクル」

生ごみ堆肥は「資源と土と食と人をつなぐ宝もの」それが学校を舞台にできたら素晴らしいことです。さいたま市立栄小学校では、給食の調理くずと残飯を堆肥にし、それを活用して学校の敷地の森や畑、体験田、地域までつながるリサイクル空間をつくりだしています。



給食委員がていねいに水切りする



調理くずと食べ残しを毎日計量・記録し、生ごみ処理機へ



その主役は児童たち。生ごみリサイクルは5、6年生24人の給食委員です。全学年クラスの残飯を受け入れ、よく水を切り、計量・記録して、生ごみ処理機に入れます。処理機は、生ごみを毎日連続投入して、攪拌しながら分解・発酵をすすめ、学期ごとに乾燥した粉末を取り出すもの。年に数回発酵菌を加えます。

委員の児童は「水分をよく切るとウジ虫が出ない」「残りものが腐らないで堆肥に変身する」ことなど、仕事にやりがいを感じています。そして、全校児童が交代で行う「生ごみ処理機の見学・体験」では、講師役として、堆肥づくりのしくみや仕事を説明し、「大事に食べて、大事にリサイクル」することをアピールするのです。

#### ● 地域まで広がる生ごみ堆肥利用の楽しみ

こうしてできた生ごみ堆肥は、まず5年生の無化学肥料・無農薬の米づくりに使われます。春3月の耕うん時に堆肥を施した田は、4月、新5年生に受け継がれ、